

越境学習としてのスポーツサークル活動

バスケットボールサークル活動に参加する 40 代ビジネスパーソンの事例研究

経営学研究科 経営学専攻修士課程

人材・組織マネジメントコース

瀧澤 裕樹

本研究では、越境学習研究の枠組みに基づき、40 代のビジネスパーソンが参加するバスケットボールサークル活動に注目し、職場外活動が個人の成長や職場での行動にどのような影響を与えるかを明らかにすることを目的とした。近年、日本の競争力や人材力の低下が指摘される中で、特に 40 代ミドル世代のビジネスパーソンは、学習意欲の低下やキャリア停滞感を抱える傾向が強く、この年代へのモチベーション向上や成長機会の提供が課題となっている。本研究は、趣味のスポーツサークル活動という比較的取り組みやすい社外活動に着目し、そこでの学びの可能性について調査・分析を行った。

研究目的に基づき、本研究では、社会人バスケットボールサークルに参加する 40 代のビジネスパーソン 9 名に対してインタビュー調査を実施し、収集したデータをもとに 3 段階の質的コーディングを行った。その結果「心身の健康維持」「職場外での人間関係構築」「セルフ・アウェアネスの強化」「協働のシミュレーション」の 4 つの概念と、12 の下位概念が抽出された。これらの分析を通じて、バスケットボールサークル活動が単なる心身の健康維持にとどまらず、異なる背景や価値観を持つ他者との交流を通じて調査協力者が自己を内省し、自己効力感や柔軟な思考を高める役割を果たしていることが明らかになった。また、チームプレイを通じた断続的なメンバー間のインタラクションにより、調査協力者が職場でのチームワークやリーダーシップ、問題解決能力を向上させる行動変容を促進していることも示された。

これらの知見は、趣味のスポーツサークル活動が 40 代のビジネスパーソンにとって越境学習の機会となり、仕事への積極的な姿勢や自己改革を促す可能性を示している。本研究は、越境学習としてのスポーツサークル活動の意義を明らかにし、従来の理論の発展に寄与するとともに、企業の人材育成や個人のキャリア支援への新たな示唆を提供した。

今後の研究では、バスケットボールサークル以外のスポーツサークルや、スポーツ以外の趣味活動を対象とした質的調査を通して仮説を構築し、それに基づいて越境学習の実際の効果を検証・測定するための量的調査の実践が期待される。

(指導教員：戎谷 梓 准教授)